

歴史的風致における文化財の価値認識に関する研究

熊本大学大学院 学生会員 茂田陵 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

本研究は、歴史的風致維持向上委員会に認定された都市の中でも自治体が積極的に制度を活用し行政に保全に寄与している文化財保全に着目する。歴史的風致は、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義され、保存だけでなく活用を行っていくことで地域社会の変貌に対応した包括的な文化財保護を行うことで個性あふれる地域づくりや地方創生や経済の活性化に繋がることが求められる。

既往研究では、時系列ごとの歴史まちづくりの資源を示した研究¹⁾や、地域の文化財をめぐる参画意識が住民にどう影響を及ぼすかを研究したもの²⁾は存在するが、マネジメントと管理の双方から文化財保全を捉えた研究は少ない。

本研究の目的は熊本市の歴史的風致地区において「保存」と「活用」に着目し、それぞれの文化財への価値認識の構造を明らかにすることである。そのために「保存」と「活用」と行っている個人や団体に対して半構造化インタビュー調査を行った。

2. 文化・歴史をめぐる政策の変遷

本章では、文献調査により歴史的地域遺産へのまなざしの変遷を整理する。

(1) 文化財をめぐる政策の変遷

文化財保護行政は1950年文化財保護法を契機とし、過去数度にわたる改正を経て「保存優先」から「理解促進」「活用」へと切り替わっている。

(2) 歴史まちづくりをめぐる政策の変遷

高度経済成長期の大規模な宅地開発による歴史資産の減少等の課題から、現在では地域レベルで総合的な保存・活用を行うと共に各自治体の積極的な計画の策定を求められ、2008年の歴史まちづくり法を契機に日本の各都市で歴史を活用したまちづくりが行われている。

(3) 熊本市における文化・歴史政策の変遷

本研究の対象地である熊本市では、2020年に市内8カ所が歴史的風致維持向上計画の認可を受け歴史まちづくりを推進していくに至った。一方で2021年に郷土文化財制度が施行され自治体独自の文化財保護行政が行われていく兆しが見えている。

本研究では本市の郷土文化財制度の第一号であると共に歴史的風致地区でもある「託麻新四国八十八ヶ所巡り」を対象とする。

3. 熊本市東区託麻地域の文化財の位置付け

本章では、研究対象地である熊本県熊本市東区託麻地方の歴史と文化財を整理し、託麻地区における文化財の立ち位置の変遷を明らかにした。

(1) 研究対象地の概要・地勢

託麻新四国八十八ヶ所巡りの歴史的風致は託麻北と東地区にまたがる地域であり、1970年代から大規模インフラや総合公園の開発に伴う開発によりベッドタウンとして宅地が拡大している。

(2) 託麻新四国八十八ヶ所巡り

託麻新四国八十八ヶ所は弘法大師の伝説が由来となっており、88の札所は個人が所有しているといった特徴がある。

(3) 託麻地区に伝わる伝承と文化財

託麻地区では八十八ヶ所の札所だけでなく、様々な歴史的な遺産が存在しており、市街地に点在している。

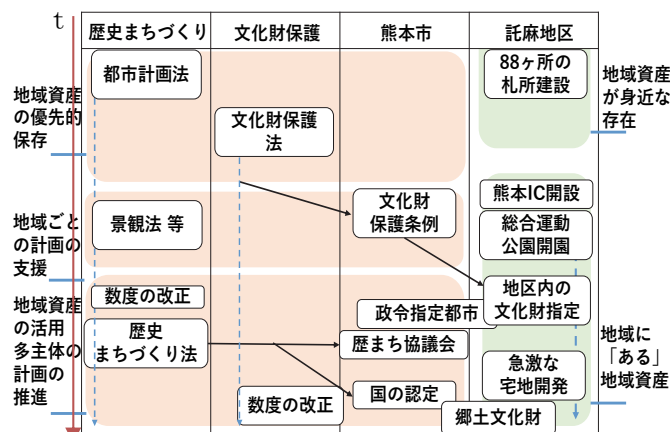


図-1 歴史・文化をめぐる政策の変遷

4. 保存から見た文化財の価値認識

本章では、札所の管理者を対象にオーラルヒストリー調査を行い保存の視点から管理者の札所の価値認識を分析した。

(1) 調査手法

それぞれの札所の設えに着目し、割当法にて対象を抽出しオーラルヒストリー調査を行った。インタビュー形式で調査を行い、各個人の札所への関わりと意見を自由に語ってもらった。

(2) 調査対象者の語りの特徴

各対象者毎の特徴や札所の特徴、回答者本人の情報や語りについて整理し、各個人が認識する価値を口述データから抽出した。

(3) 抽出された認識の特徴

コーディングされた語りの分類による各個人の文化財の価値認識の一般化を行った。

(4) 保存からみた文化財の価値認識の分析

前節までの分析を用いて託麻地区における札所の持続的な保存に寄与する要因について言及を行う。

5. 活用からみる文化財の価値認識

本章では、託麻新四国八十八ヶ所巡りを対象に活動や活用を行っている主体に対しヒアリング調査を行い、活用の観点から各主体の八十八ヶ所巡りに対する価値認識を分析した。

(1) 調査手法

過去 8 年にわたり託麻新四国八十八ヶ所巡りを活用したイベントを行っている主体や参加者・行政を抽出し、活動の経緯や意見を自由に語ってもらうヒアリング調査を行った。

(2) 調査対象者と活用の特徴

各団体の活用の特徴を整理した。

(3) 活用から見た文化財の価値認識の分析

前節までの結果を用いて地域資産である文化財を利用したマネジメントを通して活用の観点から託麻新四国八十八ヶ所巡りに対する認識を明らかにすると共に各主体が目指す地域像について言及を行う。

6. 歴史的風致における文化財の価値認識の分析

前章までに示した各ステークホルダーが認識する

文化財の価値に関する分析・考察を行い、発表会時に行政・及び団体や個人による歴史まちづくりに資する文化財のマネジメントの考察を行う。

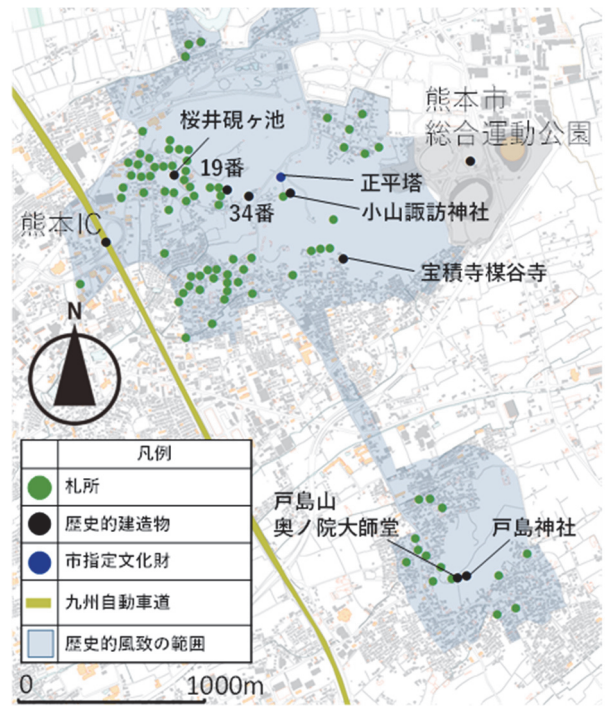


図-2 託麻地区における文化財所在

表-1 調査対象者

保存	札所番号	種類	年齢	性別	日時
A	29番札所	千手観世音菩薩	80代	男性	2021/10/5
B	31番札所	文珠菩薩	70代	男性	2021/11/13
C	72番札所	大日如来	80代	男性	2021/11/13
D	13番札所	十一面観世音菩薩	70代	女性	2021/12/5
E	71番札所	千手観世音菩薩	50代	男性	2021/12/5
F	49番札所	釈迦如来	70代	男性	2021/12/8
G	52番札所	十一面観世音菩薩	80代	女性	2021/12/11
H	80番札所	千手観世音菩薩	70代	女性	2021/12/15
活用	団体名	主な活用	年齢	性別	日時
A	たくま八十八ヶ所巡り実行委員会 東校区青少年健全育成協議会	巡礼 地域学習	50代	男性	2021/11/13
B	熊本市役所文化政策課	文化財保護	50代	男性	2021/11/25
C	熊本市東区総務企画課	史跡巡り	50代	男性	2021/11/25
D	熊本市東区まちづくりセンター	活用の援助	60代	男性	2021/11/25
E	託麻西南繁栄会	スタンブフリーウォーキング	40代	男性	2021/12/11
F	託麻北小学校PTA	地域学習	40代	男性	2021/12/13

参考文献

1) 松本邦彦：歴史的風致維持向上計画における歴史的資源の位置づけに関する研究,ランドスケープ研究 5 号,79 巻 2011 年.

2) 白柳洋俊：地域の歴史に関する知識が町並み保全意識に与える影響分析,都市計画論文集 3 号,2021 年.